



登録資産および緩衝地帯

登録資産の範囲は、日光山内にある二社一寺およびこれらの建造物群を取り巻く「遺跡」です。
登録遺産の周辺には、それを取り巻く環境や雰囲気をも保護するために、緩衝地帯が設けられています。



【家光廟大猷院】

三代将軍家光公の墓所が家光廟大猷院です。家康公を心から尊敬していた家光公は、「自分の死後も東照大権現に仕える」との遺言を残しました。現在、国宝となっている大猷院霊廟本殿、相の間、拝殿は、1653(承応2)年に造営されたものです。建物は東照宮の方向を向いており、ここにも家康公を慕う心が表れています。



【慈眼堂】

慈眼堂は天海大僧正の墓所です。天海は日光山貫主として入山しました。家康公が駿府で亡くなると、東照社の創建に力を尽くします。東照社を絢爛豪華な建物に建て替えた際にも強い影響力を与えたとされます。衰退していた日光山を建て直した功労者です。



【日光二荒山神社】

霊峰とあがめられた二荒山(男体山)が名前の由来です。勝道上人は辛苦の末に登頂を果たし、二荒山神社のもととなる祠を築きました。山岳信仰の興隆の中で、男体山、女峰山、太郎山の三山に大己貴命、田心姫命、味耜高彥根命が宿るとみなして三神が祀られるようになり、日光三社権現とも呼ばれました。本社の本殿は二代将軍秀忠公が1619(元和5)年に造営・寄進したものです。



【日光東照宮】

日光東照宮は徳川家康公の遺言に基づき、二代将軍秀忠公により「東照社」として1617(元和3)年に建立されました。家康公は江戸からほぼ真北の位置にある日光の地から、世の平和を見守ることを願ったのです。家康公を敬慕してやまない三代将軍家光公は、1年5ヶ月の期間をかけ、延べ454万人の人員を投入して「寛永の大造替」を行い、絢爛豪華な建物に建て替えました。現在残っている建造物の多くはこの時に造営されたものです。精巧な彫刻に彩られた国宝の陽明門や本殿・石の間・拝殿など、随所に当時の最高水準の技術が用いられています。



【日光山輪王寺】

日光開山の祖勝道上人が8世紀末に創建した四本龍寺を起源としています。輪王寺はお寺やお堂、15の支院の総称です。山岳信仰の場として多くの行者を集めました。明治になって政府から神仏分離令が出されると、日光山は厳しい立場におかれます。かつてあった109のお寺は満願寺だけに併合されてしまいます。三仏堂はこの時に二荒山神社付近から現在の場所に移りました。このような悲運に見舞われたものの、1882(明治15)年に一山15ヶ院が復興し、翌年には輪王寺の呼称も復活しました。



【神橋】

日光を開くため大谷川を渡ろうとしていた勝道上人が、激流に阻まれて難儀していたところ、深沙王の放った2匹の蛇が橋となって渡ることができたという伝説が残っています。朱塗の美しい橋で国の重要文化財に指定されています。また山口県錦帯橋、山梨県猿橋とともに、日本三大奇橋の1つに数えられています。

